会 員 各位 関係者 各位

食農資源経済学会 会長 磯田 宏

2023 年度 食農資源経済学会 第 17 回大会 (鹿児島大会) のご案内

時下、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、2023 年度食農資源経済学会第 17 回大会(鹿児島大会)を下記のとおり開催いたします。 多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

【1】日 程

9月1日〔金〕	◇エクスカーション	10:30~17:20 (大隅半島方面)
	◇理事会	17:30~19:30(農・獣医共通棟 102 号)
9月2日〔土〕	◇報告討論会	9:00~16:50(農・獣医共通棟 101 号)
	◇総会・常務理事	13:00~14:20(農・獣医共通棟 101 号)
	及び会計監事選挙	
	◇新常務理事会	17:20~17:50(農・獣医共通棟 104 号)
	◇懇親会	18:00~20:00 (ヴェジマルシェ'19)
9月3日〔日〕	◇研究報告会	9:00~16:00 (農・獣医共通棟 104・105号)

【2】会 場

◎大会会場 鹿児島大学郡元キャンパス 農・獣医共通棟1階

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24

- ※昼食等は大学内中央食堂(9月2日のみ)や会場周辺の飲食店およびコンビニエンスストアをご利用ください。お弁当等は準備しません。
- ◎懇親会会場 鹿児島大学内 稲盛記念館 2 階「ヴェジマルシェ'19」電話 099-296-7704
- ○鹿児島大学郡元キャンパス 農・獣医共通棟への交通案内

IR 鹿児島中央駅から: 市電 郡元行き 10 分 (「神田 or 唐 湊 」電停下車) →徒歩 5 分

天文館から:市電郡元行き 20分(「神田 or 唐湊」電停下車)→徒歩 5分

鹿児島空港から:空港リムジンバス 40~50 分(「鹿児島中央駅」下車)→市電(上に同じ)

【3】エクスカーション

今回のエクスカーションでは、翌日の報告討論会第2報告の「南州農場グループ」の六次産業 化や飼料自給・循環型農業の取り組みについて視察します。

JR 鹿児島中央駅からバスとフェリーで大隅半島に移動します。まずは「南州農場ダイニングクートン」(鹿屋市)にて昼食です。メニューは炭火焼黒豚肩ロースステーキ(セット 1,700 円)がおすすめです。お会計は現地にて個別にお支払いください。昼食後は、隣接する加工施設や直売店を視察し、南州農場グループのお話をうかがいます。

その後、バスで南州農場の飼料自給や循環型農業の現場を視察します(南大隅町の圃場など)。なお、バスの座席に限りがあるため、参加申込順により満席(20 名)になり次第締め切らせていただきます。そのため、エクスカーションへの参加を希望される方は、早めに大会申込URLにて参加申し込みを行ってください。参加費は 2,000 円です(当日乗車時に徴収。フェリー代込み、昼食代は別)。参加申込状況は学会 HPで随時お知らせいたします。

[エクスカーションのスケジュール]

10時30分までにJR 鹿児島中央駅西口バス駐車場に集合してください。

10:40 鹿児島中央駅西口から貸切バスで鴨池港に向け出発

11:20~12:05 鴨池港からフェリー出発→垂水港着

12:45 頃 南州農場ダイニングクートン着

12:45~14:00 頃 昼食と6次化の取り組み視察、南州農場の説明

14:00~16:00 飼料自給と循環型農業の取り組み等を視察(南大隅町・垂水市)

16:20~17:05 垂水港→鴨池港

17:20~17:30 鹿児島大学と鹿児島中央駅にて下車

※諸事情により旅程が変更となる可能性がございます。変更等は、学会 HP で随時お知らせいたします。

[エクスカーション参加者集合場所](JR 鹿児島中央駅**西ロバス駐車場**)

新幹線・在来線改札口を出て左側に進み、エスカレータで 1 階に降りたところ。桜島側 (市電電停)の反対側の出口です。当日の連絡先(090-8357-1638:坂井)



【4】報告討論会

○共通テーマ『南九州畜産とみどりの食料システム戦略対応』

9:00~9:05 学会長挨拶 磯田宏(九州大学)

9:05~9:20 座長解題 豊智行 (鹿児島大学)・中川隆 (中村学園大学)

○報告討論会のねらい

南九州畜産のこれまでとみどりの食料システム戦略に対応する計画や事業、それらに関連する研究を報告し、持続的な畜産物生産の確立に資する環境負荷軽減、資源利用、家畜防疫強化、省力的飼養管理等における課題を浮き彫りにしていくことにより、地域特性に応じた今後の南九州畜産の展開に向けて共通認識を醸成したい。

○報告討論会各報告時間

9:20~10:00 第1報告「みどりの食料システム戦略からみる南九州畜産の課題と 展開方向」

山本直之(宮崎大学)

10:00~10:40 第2報告「六次産業化と循環型農業の実践」

石松秋治(南州農場株式会社・代表取締役会長)

渡辺克司 (鹿児島国際大学)

10:40~11:20 第3報告「JA 鹿児島県経済連 営農戦略の取組みについて(仮題) |

報告者検討中(JA 鹿児島県経済連 営農戦略推進室)

11:20~12:00 第4報告「畜産廃棄物のエネルギー利用に向けた課題と

濃縮バイオ液肥(Bio-CLF)導入の可能性」

矢部光保 (九州大学)

12:00~13:00 昼食

13:00~14:20 総会・常務理事及び会計監事選挙

14:20~14:50 コメント (2人・各15分)

第1コメンテーター 鹿児島県庁から選出予定

第2コメンテーター 井上憲一(九州大学)

14:50~16:50 討論

【5】大会参加の申し込み

大会(エクスカーション・報告討論会・研究報告会・懇親会)参加希望者は、8月10日[木]までに、下記 URL あるいは QR コードの Google フォームより、参加申し込み手続きを行ってください。

※予約の関係上、懇親会も下記 URL または QR コードから事前申込をお願いいたします。

①大会参加申し込み URL と QR コード https://forms.gle/Z4PPLynTNgq6gNwK8



学会 HP のトップページにある「トピックス」にも大会情報を掲載しています。ここからでも上記の大会参加申込み URL にアクセスできます。

参加申し込み後、登録いただいたメールアドレスに、受付をお知らせするメールが届きます。 必ず確認し、届かない場合は鹿児島大会事務局(<u>nsakai@agri.kagoshima-u.ac.jp</u>)までご連 絡ください。

※Google フォームにアクセスできない場合

<u>件名を「大会参加申込み・氏名」として、下記アドレスまでメールをご送信ください。</u> その際、報告討論会、懇親会、研究報告会、エクスカーションのそれぞれについて参加の 可否をお知らせください。

事務処理の都合上、可能な限り Google フォームによる参加申し込みにご協力ください。

②Google フォームが使用できない場合の参加申し込み先 大会事務局(2023 年度大会) E-mail: nsakai@agri.kagoshima-u.ac.jp

【6】研究報告の申し込み

報告希望者は、**7 月 31 日 [月] (必着)** までに、報告要旨 1 ページ分(「研究報告要旨作成要領」参照)のデータファイル(Microsoft Word)を電子メールに添付し、メールの件名を「研究報告申込み・氏名」として下記の学会事務局宛に送信してください。

なお、研究報告会での発表を希望される場合、当学会に未入会の方は、申込締め切りまでに、入会申請手続きと年会費(2023 年 8 月 1 日 \sim 2024 年 7 月 31 日分)の支払いを行ってください。

報告時間は(質疑を除いて) $15\sim20$ 分の予定です。報告順、時間等については追って学会 HPに掲載いたします。

研究報告要旨送付先:学会事務局 上西良廣

E-mail: jimu@shokunoshigen.jp

【7】大会参加費

①大会資料代 (大会参加費): 2,000 円 ②エクスカーション参加費: 2,000 円

③懇親会費 : 5,000 円 (学生会員 3,000 円)

【大会についてのお問い合わせ先】

(1) 第17回大会(鹿児島大会)についてのお問い合わせは、以下にお願いいたします。

大会実行委員会・委員長 : 豊智行 (鹿児島大学) 大会実行委員会・事務局 : 坂井教郎 (鹿児島大学)

Tel. 099-285-8620

E-mail: nsakai@agri.kagoshima-u.ac.jp 〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24

鹿児島大学農学部 農業経済学研究室

(2) 当学会への入会および研究報告等についてのお問い合わせは、以下にお願いいたします。

食農資源経済学会・学会事務局 : 上西良廣(九州大学)

Tel. 092-802-4682

E-mail: jimu@shokunoshigen.jp

以上





研究報告要旨作成要領

Manual for Making Abstract

1. 書式 Form

- 1) A4 判横書き。横 35 文字×縦 32 行。
- 2) 上下, 左右にそれぞれ 30mm の余白を取る。
- 3) 文字のフォントサイズは全て12ポイント。
- 4) 読点は「,」(全角コンマ), 句点は「。」。
- 1) A4 size and vertical 32 lines
- 2) Take the blank of 30mm in top and bottom, right and left.
- 3) All font size 12pt.

2. 構成 Constitution

1 行目: 題目 MS ゴシック, センタリング。 題目が 2 行にわたる場合は, 適宜改行してセンタリング。 副題 MS ゴシック, センタリング, ハイフンで閉じる (一副題一)。

2行目:空白行。(副題がある場合は、その次の行を空ける。以降同様。)

3行目:氏名(所属), MS 明朝, センタリング。姓と名の間は全角1文字空ける。

4 行目:空白行。

5 行目:本文, MS 明朝。英数文字は半角, Times New Roman。

Line 1) Title; Times New Roman, Bold, Centering. When the title spans two lines, break the line and center it accordingly. In addition, when there is a subtitle; Centering and using colon.

Line 2) Blank line.

Line 3) Name (Affiliation), Times New Roman, Centering.

How to write name; "Givenname SURNAME" (surname with all letters capitalized)

Line 4) Blank line.

Line 5) Text; Times New Roman.

3. 設定 Setting

用紙サイズ	A4	上段マージン	30ミリ
紙の置き方	縦方向	下段マージン	30ミリ
1行文字数	35文字	左端マージン	30ミリ
1ページ行数	32行	右端マージン	30ミリ
文字方向	横書き	ページ番号	付けない
本文のフォント	MS明朝	フォントサイズ	12ポイント

英数文字のフォント 半角, Times New Roman

Paper Size A4 Header margin 30mm Print orientation longitudinally Footer margin 30mm 30mm Number of lines per page 32 Left margin Font Times New Roman Right margin 30mm Page number Don't write Font size 12pt

4. その他 Other

上記設定をしたテンプレートを学会ホームページよりダウンロードし、適宜利用すること。

Please download and use the template with above settings from the website.

九州地域における農業・農村の持続的発展に向けた課題と展望 ー福岡県を事例としてー

九州 花子 (九州大学) 九州 太郎 (九州大学)

九州は他地域に比べて温暖であり、米、麦、大豆、飼料作物をはじめとする 土地利用型作物のほか、果樹や野菜といった労働集約的作物の栽培が盛んであ る。九州は全国の中でも農業のウエイトが大きい地域であり、農業の持続的発 展のあり方を探ることが、とても大きな課題になっている。

•

•

•

•

•

.

•

.

.

.

•

•

Challenges and Prospects for Sustainable Development of Agriculture and Rural Areas in the Kyushu Region: A Case Study of Fukuoka Prefecture

Hanako KYUSHU (Kyushu University)
Taro KYUSHU (Kyushu University)

Kyushu is warmer than other regions in Japan, and cultivation of land-use crops such as rice, wheat, soybeans, and fodder crops, as well as labor-intensive crops such as fruit trees and vegetables, is flourishing in the region. Kyushu is one of the regions in Japan where agriculture accounts for a large share of the national economy, and the search for ways to sustainably develop agriculture has become a major issue.

•

•

•

•

•

•

•

•

.

•

•

.